

※喀痰塗抹検査とは？

喀痰検査とは、痰を採取して、その中にどのような病的な成分が含まれているかを顕微鏡で観察する検査で、呼吸器の病気を診断するためには不可欠なものとなっています。

痰は呼吸器系の粘膜からしみ出る分泌物で、その成分には、肺や気管支、咽喉頭など気道からはがれた細胞も含まれています。

これらの細胞に異常があったり、異物(細菌、ウイルス、ほこりなど)や血液成分が混じっていたりすると、痰に変化があらわれます。

痰を調べれば、肺や気管支など呼吸器の様々な情報を得ることができます。

喀痰検査で何がわかるのか？

痰を調べることは、呼吸器系の病気の診断では大変重要です。

痰の検査の中では、感染症の有無や病原体を特定する細菌検査と、がん細胞の有無を見るための細胞診の2つが重要です。

喀痰検査はどのような検査か？

検査は、痰を出して調べます。

結核の診断では、異なる日の3日間で、続けて痰をとり検査を実施します。

検査を受けるときの注意点

採痰するときは、必ずうがいをして口の中をきれいにします。

これは食物の残りかすなどが痰の中に混ざり、他の細胞との鑑別が難しくなることがあるからです。

異常な場合に疑われる病気

肺がん、肺結核、細菌性肺炎、非細菌性肺炎(マイコプラズマなど)、肺真菌症、気管支炎など



(大分県東部保健所 検査課 診療放射線担当 令和2年5月15日作成)

ガフキー号数

ガフキー号数 (拡大500倍)	検出菌数	簡便な 記載法
0	全視野に 0	陰性 (-)
1	全視野に 1~4	少数
2	数視野に 1	(+)
3	1視野平均 1	中等数 (++)
4	1視野平均 2~3	
5	1視野平均 4~6	
6	1視野平均 7~12	
7	1視野平均 (やや多数)13~25	多数 (+++)
8	1視野平均 (多数)26~50	
9	1視野平均 (はなはだ多数)51~100	
10	1視野平均 (無数)101以上	

鏡検における検出菌数記載法

記載法	蛍光法 (200倍)	チール・ネルゼン法 (1,000倍)	備考
—	0/30視野	0/300視野	G0
±	1~2/30視野	1~2/300視野	G1
1+	2~20/10視野	1~9/100視野	G2
2+	≥20/10視野	≥10/100視野	G5
3+	≥100/1視野	≥10/1視野	G9